

令和6年度 北見カトリック学園 認定こども園 網走藤幼稚園 学校評価

1.教育目標

1. 神様から一人ひとりが愛され、かけがえのないものとして、慈しまれていることを知り祈る心を育てる。
2. 自然の中で遊び、神様の大きな業を知り、その恵みに感謝し全てのものを大切にすることを育てる。
3. 人との関わりの中で、聞く力、話す力、考える力を養い自立心を育てる。
4. 自発的に善を行なう強い心を養う。
5. 共生の喜びを感じることをできる子どもを育てる。

2. 教育目標達成に向けての令和6年度の重点

- (1)「神さまがそばにいるよ～ありがとうを伝えよう」を保育のテーマに持ち、神様を身近に感じ、感謝する心を育む。
- (2)園児の発達年齢に即した教材研究・教材準備を充実させ、援助と指導に努める。
- (3)年齢相応の自覚をもち、行動できるよう自立に向けた援助と指導をする。
- (4)保護者との連携を取りながら、園への理解と協力を図る。
- (5)認定こども園に於いて、利用時間が多様な子どもがいることを踏まえ、教育・保育内容の見直しと充実を図る。

3. 評価項目の達成状況

評価項目	結果	理由
教育内容・環境の充実と計画性	3.4	・園の教育理念を教職員で共有し、教育課程や保育内容の見直し等を図りながら進めた。 ・より充実した保育を目指し、日々の評価、反省、改善を行い次年度へ繋げていく。 ・宗教教育について年間を通し計画を立て、園がまとまって取り組むことができた。
保育の充実と園児との関わり	3.6	・園児一人ひとりを理解、尊重し、発達や年齢に応じた丁寧なかかわりを行った。 ・個別の支援を必要とする園児の、支援計画の充実や地域との連携を深めることができた。 ・預かり保育利用園児は低年齢の園児が増加傾向にあるため、職員の加配を行うと共に、保育内容の充実を今後も図り、子育て支援を行っていく。
安全管理	3.8	・地震・火災・津波訓練・安全点検などの充実にも努めた。 ・園児の遊びや活動を見直し、事故や怪我の軽減に努めた。 ・津波訓練の実施と冬季を想定した避難を日ごろの保育に取り入れ、「歩く」経験を継続して積んでいる。今年度も地域と連携した訓練を行った。 ・危機管理マニュアルの見直しを図り、それを基にした職員研修を行った。
地域の幼児教育機関としての役割	3.1	・町内会と連携した津波訓練や年長児の学校訪問等、地域の協力を仰ぎ進めることができた。 ・老人施設等を訪問し、交流を図ることができた。 ・未就園児教室の利用者が減少傾向にあるため、今後も子育て支援事業の充実を図り、地域へ発信をしていく。 ・少子化を見据え、地域に必要とされる幼稚園を目指し、通年を通し園児募集を行う。
教員の資質・能力向上	3.4	・外部の研修会への参加やオンラインや配信教材を活用し、研鑽に努めた。次年度も教職員一人ひとりが課題を持ち研修を積んでいきたい。 ・特別支援の研修・ケース会議の充実を図り、職員が一致した支援に取り組むことができた。 ・次年度は更に園内研修の充実を図り、保育のスキルアップを目指す。
保護者との連携	3.7	・認定こども園として、保護者の理解を深め充実にも努めた。またコドモンを活用し、家庭との連携を今後も充実させていく。 ・保護者の相談・子育ての支援に努め信頼を得ると共に、子育てに不安を抱える保護者へのサポートを継続して行っていく。 ・保育参観や通信等を通して、子どもの成長や様子を家庭と共有できるよう努めた。さらに、家庭からの様々なニーズに丁寧なきめ細やかさをもち対応していきたい。

※結果の表示方法 4 十分達成されている 3 やや達成されている 2 あまり達成されていない 1 取り組まれていない

4. 令和6年度の総評

結果	理由
3.5	・チーム藤幼稚園として職員間で連携を図り、保育に臨むことができた。 ・コドモンの保育ドキュメンテーションやHP等を使い、保護者が園の様子をよりわかりやすく見えるよう進めた。 ・感染対策は日々の清掃、消毒、手洗い指導等、感染予防に努めた。 ・園児数の減少に伴いクラス編成を見直し4クラス体制で保育を行った。教職員の配置も見直し、子どもたち一人一人の年齢、発達に合わせた保育を行った。また特別支援教育における研修や地域の連携に努めることができた。保健センターやこども発達支援センターとの連携を行い、子育て支援の充実へとつながった。

5. 来年度に向けての課題

- ・園児数の減少を見据え、クラス編成の見直しや子育て支援(預かり保育・未就園児教室)の充実をより図り、教育課程や行事の見直しを進め、より良い保育に取り組む。
- ・地域に必要とされる幼稚園を目指し、情報を発信するとともに、通年を通し園児募集を行う。
- ・コドモンを活用し、保護者へ園の活動や園児の様子をよりわかりやすく伝え、家庭との連携の充実を行うと共に、保育業務の円滑化を図り負担軽減へつなげる。
- ・特別支援児を多く受け入れる中、教職員の配置を検討し、一人ひとりの発達に合わせた、より良い適切な保育に努める。
- ・防災訓練や園バスの安全運行、不審者対応、保育を含めた安全管理や教職員の研修を行っていく。
- ・給食施設設置の要望を継続すると共に、未就園児保育の計画を検討していく。
- ・1階クラスのエアコン設置の要望を継続し、園児の環境の充実にも努める。